

総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 令和5年6月7日(水)
11時35分開会 12時35分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：中河つる子 副委員長：田村幸紀
委 員：只野敏彦、鈴木孝寿、中島里司、深沼達生
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 請願の審査について
(2) 所管事務調査の申し出について
(3) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

【開会 11 : 35】

(1) 請願の審査について

委員長（中河つる子）： 只今より、総務産業常任委員会を始める。請願の審査について、請願第2号、2024年度地方財政の充実・強化に関する意見書の請願についてを審査する。昨年も同様の請願が出されて採択されている。請願内容について各委員の見解等を確認する。その後、委員会として採択又は不採択の結審をする。

鈴木委員：採択でよろしいと思う。

田村委員：私も特に意見ないので、採択でよろしいと思う。

深沼委員：私も採択でよろしいと思う。

中島委員：採択でよろしいと思う。

只野委員：私も同じく採択でよろしいと思う。

委員長：皆さんの意見は全て採択であったので、この意見書は採択ということで13日の本会議で報告する。

事務局長（大尾 智）：今お配りしたのが、今年度の意見書案と昨年の意見案両方をお配りしている。昨年、若干削除した部分もある。自治体の一般行政費を圧迫していることからという部分は削除した経過がある。昨年と見比べていただくと、言い回し等違いもある。大きな部分は、昨年は4番のコロナ禍における対応というところがあつたが、今年はそれがなくなり、デジタル化の部分が繰り上がっている。そして、学童保育の処遇改善等が5番に入っている。それから6番から11番については、昨年と若干表現、言い回し等が変わっているが同様の項目が載っている状況である。

委員長：若干時間をとって中身を確認願う。

（意見書案内容確認）

委員長：内容は昨年とは変わっているがいかがか。

鈴木委員：3番目で、一般行政費を圧迫しているから財政措置をやるというのではなくて、そもそも、社会保障ニーズで行政費、そういう部分がかかるというのであればそれはそれで国がしっかりやってくれと、社会保障ニーズが高まっているから財政措置を講じてと言っているけれども、これは、たぶん消したのが、ニーズが高まってい

て一般行政経費が圧迫されているから財政措置をやれというふうにとられるということだとぶん消したと思う。ここは前回のように、一般行政費を圧迫するからではなくて、こういうニーズがあるから財政措置を講じてくれというニュアンスのほうが我々としてはいいのではないかと、言っている意味は似たようなものであるが、ただし、一般行政経費を圧迫するからこうしなさいではなく、ニーズが高まっているからこうしなさいという意見書にすべきということで、その部分については前回と同様に削除して入れた方がいいと思う。

委員長：今の内容でよいか。

（「はい」との声あり）

鈴木委員：あと、6番、まち・ひと・しごと創生事業費の1兆円についてはとなっているが、毎年意見書をあげているということは、達成されているわけで、前年確保されている以上は6番いらなかなと思う。

委員長：6番の削除についてはどう考えるか。

中島委員：今、鈴木委員から話あったように、既に予算として確保されている、引き続きというのが、要請したものに対して実行したら、それに追っかけて理由つけて請願するのかというところを考えると、請願して結果が出たものに対してまた条件つけるというのも、一応達成したわけで、あえてそれをまたダメ押しみたいなことをやる必要があるのかどうかというのは疑問である。達成したら次の新しいものを目指すと言うのが請願の主旨ではないかと、だからあえてその文章は削除して構わないと思う。

委員長：6番については削除するというところでよろしいか。

（「はい」との声あり）

委員長：それでは、6番については削除することとする。次に、請願3号、2023年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の請願についてである。これは採択するというところでよろしいか。

（「はい」との声あり）

事務局：前文のところ、昨年は新型コロナウイルス感染症という文言があったが、そこは消えている。それから、記以下のところというと3番のところ、昨年はキャリアアップ助成などの助成金を活用して引き上げることという表現であったが、今年はパートナーシップ構築宣言の拡大を進めて、各種助成金を利用して引き上げることという表現に変わっている。

委員長：それでは、新しい3番も含めながら内容はどうか。

鈴木委員：1,000円と上で書きながら、2番で最低賃金は1,054円を下回らないと、ダブル表記なので、まずは1,000円を目指しましょうということで、昨年は2番を消したと思うので、2番を削除して、3番はこれでいいと思う。

中島委員：道内高卒初任給1,054円、逆にこの部分を削除して、道内高卒初任給を下回らない水準に改善することとすれば、残すのであればそういうことだが、請願であるから一貫性を持たせるというのが役目かなというのを考えると、最終的には鈴木委員が言ったような考え方になるのかなと思う。

只野委員：私もそれでいいと思う。

田村委員：2番を削除するのはいいと思う。3番の賃上げの原資をここまで言う必要というのがわからないので、わざわざ原資確保のことでこれを出す必要というのもないかなと、最低賃金改正に関する意見書なので、その原資をパートナーシップ構築宣言のというところはなくともいいかなと、すっきりするかなという気持ちはある。

中島委員：基本的には請願採択であるから、採択という議決をして、3つ項目あるうち2つ削除というのは、中身の議論というか立場として、採択決定したことを踏みにじる行為だと思う。考え方はあると思うけれども、2番は前年度の関りから来ているので、2だけを削除にして了解してもらえたらと思う。

田村委員：よくわかった。3番残すと言うことで。

委員長：それでは2番だけ削るということで、2つの項目で提出するというところでよろしいか。

(「はい」との声あり)

(2) 所管事務調査の申し出について

委員長：それではそのように進める。次に、所管事務調査の申し出について、9月定例会までの所管事務調査について、調査申し出事項を協議する。調査を何にするか。

事務局長：できれば今日決めていただければと思うが、決まらなければ最終日までに所管事務調査の申し出をしなければならぬので、遅くとも14日までに決めていただくということになる。コロナ前は、個別の案件がなければ、合同作況調査が9月1日現在でやるので、そこに同行するような形をとっていたこともあった。

中島委員：順番として、所管事務調査の申し出、今の作況調査もそのうちのひとつだが、予算では道内に限ってということで始めなければならない。こういうものを勉強したいというものがあれば道内にするのか、管内にするのかということを整理しなければならない。14日に再度委員会を開いて調査項目と場所なりを決める。9月中に行かないのであれば9月定例会に申し込めばいいのだから。

事務局長：再度14日に協議していただくということでよろしいと思うけれども、合同作況調査への随行については、行くか行かないかについては今回決めないと申し出ができないので、その部分どうするかは、今決めていただきたいと思う。

中島委員：作況調査については申し入れする必要があると思う。

深沼委員：総務産業として参加したほうがいいと思う。

只野委員：作況調査は、素人考えで言わせてもらおうと、出来上がったようなものだから、それを見に行くというよりも、その前にどうしたらいいのかとか、清水町の作物の生産高が悪いとかいうのをどうしたらいいのかというのを考えるほうが大事で、できているのを見て我々が評価するというのはどうしたものかなというふうには思う。作況調査が9月というのは、もう終盤で収穫のちょっと前なので、我々に調査されても農業の人たちは、だからどうしたというような感じになるのではないかという気がするのだけれども。

深沼委員：作況調査は議員だけではなくて農協、農業委員なり多様な形で作況調査をする。収穫期を迎えている部分と、麦に関しては収穫されて終わっている中で、今年の農業の生産はどうなのかという形。実際現場に行って、豆やビートなんかを見ながら生育状況も見て説明を受けながらということなので、肥料高騰による部分とかそういった部分はまた別な問題としてやっていけばいいと思う。

只野委員：肥料高騰とか資材高騰は政策でなんとかしようというのはあるだろうけれども、毎年調査はしていたと思う。でも、我々は見たからわかるわけではなくて、今年の春先の所管事務調査で清水は農作物の取れ高が下の方だというのが非常に大事なのに、それを今までずっと見てきたのにもかかわらず、ずっと下にいたということ。そこら辺をしっかりとしないと、ただ見に行っても見ただけで終わるのではないかという気持ちになるので、本当に行っていてためになったのかなというような感じはしている。

中島委員：農業を何とかしようというのは大事かもしれないけれども、収穫どうなっているのだろうと、これも目で確かめる必要はある。言いつばなしではなくて。そういうことも含めて歴史を含めて知識として学ばせていただける場所ということで、私は参加すべきだと思う。

委員長：清水の基幹産業である農業の作況調査に同行するというので良いか。

（「はい」との声あり）

委員長：6月14日までに皆さんに考えて来てもらい、何にするか決めるということにする。その他なにかなければ、これで総務産業常任委員会を終了する。

【閉会 12:35】